

Webデザイン実習2C

2017/10/04

Kazuma Sekiguchi

class@cieds.jp

担当

- 関口 和真 (Kazuma Sekiguchi)
 - Comcent, Inc
 - Webプログラマ兼コーダーとかいろいろ
 - デザインもごく希にやります
 - たまにWebに記事を書いたり本を書いたりします
 - Adobeの多少なりとも関係者
 - 絵は全く描けないので聞かないように
- 質問事項は、メールに所属、学年、氏名等を記載の上、
class@cieds.jpに送付

やること

- スマートフォン向けWebサイトの構築
- レスポンシブWebデザイン（RWD）
- それらを満たすために必要なHTML及びCSSの知識
- 少しJavaScriptによるインタラクション実装

A vintage mechanical scale with two pans, one showing '12' and the other '20', with text overlaid.

今のWebと求められているもの

WebDesigners are needed any skills to create web sites and Apps.

今のWeb

- 見る物から使う物への変化
 - 広告媒体の一種
 - 使ってもらう
- SNSでのシェア
- いつでもどこでも情報を手に入れられる
 - スマートフォンなどのデバイス
 - 複数のサービスを組み合わせて利用
 - スマホアプリ

重要性の変化

- 見せる物から使えるものへ
 - マウスクリックさえできればOK
 - 指でタップできる必要
 - 連携できる必要
- スマートフォンアプリとして展開
 - 他のサービスと連携して利用する
- オフラインでも使える、見られる
 - いつでも同じ状況でネットが使えるとは限らない

使い方の変化

- キーボードはより使いづらい
 - 入力を極力減らす工夫
 - ジェスチャーでの操作が可能なように
 - 入力させる場面を減らす
- 写真の方が楽
 - Instagram、Facebookの発展
- キーボード、マウスという当たり前デバイスからの思考脱却
 - VR、顔認証
- 大量の小型デバイスの登場
 - 性能がより向上

重要度の変化

- サーバーサイドでデータを生成してクライアントに渡す
 - Googleでの検索など
- 検索や掲示板などでは未だに重要な仕組み
- データを更新、読み込むときにはリロードが掛かる
 - 思考が連続的に行えない欠点
- GoogleMapなどはデータが追加されてロードされる
 - 操作性の向上
 - ほかのWebサイトでも当たり前のよう to 実現
 - 通常のアプリと同じ感覚でウェブを使えるように

ノンリロードコンテンツ

- リロード無しにWebを使うための仕組み
 - JSを最大限に利用し、クライアント側でデータを保持、更新、取得する方法で実現
 - SPA=SinglePageApplication (URLが変わらないままさまざまな機能を利用することが可能)
 - Ex:TweetDeck、YouTubeなどなど
 - 最近のWebアプリ (使うWebサイト) では当たり前
- フロントエンドの重要性
 - 使い勝手、マルチデバイス対応、状況による変化への対応

使う方へのシフト

- Webデザイナー、コーダーは変化に耐える知識と技能が必要
 - デバイスの大量出現
 - スマートフォンだけで300種類以上
 - スマートデバイスも登場
 - 使い勝手の良いUI/UXの必要性
 - 使い勝手が利用率に直結
 - 効率的な開発、集団開発時にどのようにするのが良いか
 - 現状のCSSとJSの限界
 - PostCSS、JSNext

Webの発展

- 昔はWebだけではできなかったことがどんどんできるようになってきている
 - あっと驚かせるような体験をさせることができる
 - 他のものと組み合わせると便利にすることができる
- Webの技術だけどWebサイトじゃない活用もさまざま
 - どういうのを組み合わせたらおもしろいか
 - 視点を変えるだけで、技術的に可能なものは結構多い

やって欲しいこと

You should see any web sites and do more.



やって欲しいこと (1)

- 様々なウェブサイトを見る
 - 趣味のサイトは意識せずに見るはずなので、[趣味以外のサイト](#)を見る
 - インタラクション、インターフェイスを良く観察する
 - [Dribbble](#)、[Behance](#)辺りはオススメ
- スマートデバイスを意識したUI/UXの作成
 - PC向けサイトの重要性は低い
 - スマートフォン向けにどういうメリットを出せるかを考える

やって欲しいこと（2）

- Webは進化が早い
 - 技術的なことは直ぐに陳腐化していく
 - 貪欲に調べる、やってみる
 - 基本原理は継続しているため、基本原理をきちんと把握する
 - 何かを解消するために新しい技術が出てくる
 - 何を解消しているのかを把握する
 - 技術が伴うことで表現できるものも多い
 - 最近のWeb表現はWeb技術と上手く融合している例が多い

やって欲しいこと（3）

- 勉強会などに出席してみる
 - 大体無料であちこちにて開催されている
 - 話が分からなくても刺激になることも多い
 - ヒントが得られることも
 - 何となく知っているようなものへの出席がオススメ
- 好奇心
 - ちょっとでも知っているとは全く知らないでは大違い
 - 意外な知識が意外なところで役立つことも

告知

- Adobe XD Meeting #09
 - 10月10日（火）19:00～開催
 - 参加費は無料。懇親会は実費
 - Adobe本社会議室（大崎駅）



- 参加希望の方は、<https://xd-study.connpass.com/>で参加申し込み中

HTMLTags

Review the HTML you wrote

HTML



見直すHTML

- HTMLタグをきちんと使い分けるのは重要
 - 検索エンジンに引っ掛かるようにするため
 - CSSを書くときにもHTMLが違っていたらきちんと当たらない
 - ほかのアプリとの連携を行いやすくするため
- デザイナーさんは見た目が正しければ良い、という人が多いが、Webはもともと文字文化
- 文字を構造的に正しく伝える方が大事
 - 見た目は実のところ二の次
 - 検索エンジンも構造的にできていることを前提に動作する

見直すHTML 見出しタグ

- 見出しタグはきちんと使用する
 - h1～h4くらいまで
 - h5,h6はまず使用しない
- 暗黙的に、サイトロゴはh1タグを利用する
 - 以降はh2タグ、h3タグを利用していく

見直すHTML セクション要素

- 1つの意味の固まりを表すときに使用する
- section , article , aside
 - これらは開始タグの直後に見出しタグを指定すること
 - sectionタグ内にsectionが直ぐ出てくる場合などは例外
- sectionをきちんと作成していく
 - 1つの固まりとすることができるため、JSとの連携が取りやすい
- header , footerは別にサイト全体のheader,footerという意味では無いので、複数回利用可能
 - もっともあまり使わない

見直すHTML メイン要素

- メインコンテンツ部分を括る要素
 - `<main role= "main" >`としても`<main>`だけでもOK
 - WAI-ARIAに従うなら前者
- メインコンテンツだけのため、広告部分などは省く
- 1つだけ利用可能
- HTML5ではできる限り入れること

見直すHTML 箇条書き

- グローバルメニューではul,liの箇条書き
 - それをnavタグで括る
- 箇条書きにできそうなところは箇条書きにしてしまう
 - 箇条書きの入れ子も可能（箇条書きの中に箇条書き）
- 手順などを説明する、順序がある場合は番号リストを使う
 - ol,liの組み合わせ
 - 番号はlist-style-type:noneで消せる

見直すHTML リンク

- サイトロゴにはサイトトップへのリンクを張る
 - これは暗黙的にそうなっているため、必ず適用する
- アンダーラインの付いているところはリンクとして誤解されるため、表現としてのアンダーラインの使用は避ける
- JSで動きを付ける場合、「指」マークにならないけどリンク、というのが発生しがちだが、`cursor:pointer`で回避できる
 - クリックできるところは「指」マークにする

見直すHTML 強調

- 強調的な意味合いを持つタグは数種類
 - 使い分ける
- strong:重要（入れ子にすることで重要度を強調できる）
- em：ニュアンスを変えた強調
- b：製品名やキーワードなど他と区別する（強調の意味は無い）
- i:声や心の中で思ったことなどを示す
 - アイコンに使っている例があるが、アイコン用ではない
- small：免責、著作権表記、細目などを示す

見直すHTML 画像

- width,heightプロパティ自体は省略可能
 - 省略すると遅くなるので書けるときは記述する
 - altプロパティは必須
- figure , figcaption
 - <figure><figcaption>説明</figcaption></figure>というように記述して画像の説明を記述することが可能
 - 図表などに用いる